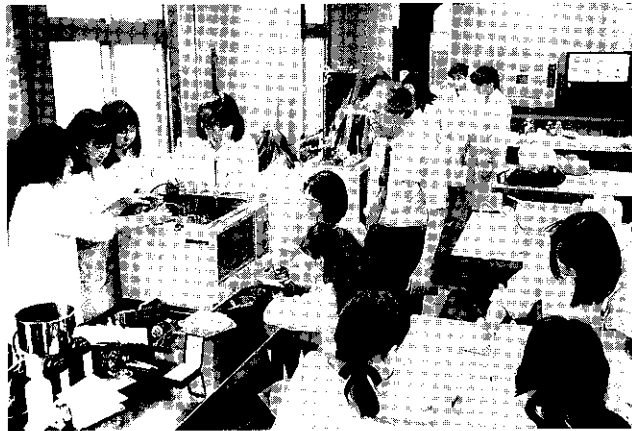


RI*WAC

Research Institute for Women and Careers

日本女子大学現代女性キャリア研究所

RIWAC 管理番号	RJO0032
調査タイトル	不明
論文／雑誌名	2「外国人留学生について」 (IV「家政学部卒業生の社会的展開」の一部)『日本女子大 学家政学部 100 年の歩み』
著者	大野静枝
掲載ページ	pp.161-162.
発行年	2006.05
出版社	日本女子大学家政学部 100 年研究会



被服学科（被服材料学実験）1989年



家政経済学科（経済学・生活論演習）1995年

日本女子大学進学説明会同時開催
家政学部シンポジウム
「21世紀をどう家政学」

**JULY 25
2000**

日本女子大学家政学部のめざすもの
—環境について考える—

家政学部の各学科で代表する専攻5人が「環境」をテーマとして家政学の現場からの取り組みを語ります。質疑の企画もお持ちしています。

開催日時 7月25日（水）11:00～12:30
場所 日本女子大学目黒キャンパス 講義棟 401教室

シンポジスト
児童学科 榎本 由起教授
身体学科 大庭ひる恵教授
生活学科 室井あゆみ助教授
被服学科 佐々井 啓教授
家政経済学科 横田敏子教授

受付 自由会場にお越しください
定額1000円（学生は半額）

主催 日本女子大学家政学部 家政学部各専攻
〒152-8501
文京区目黒2-2-1
電話 03-3842-3121（代表）
http://www.jfu.ac.jp



家政学部を考える会シンポジウム 2000年



家政学部共通（コンピュータ）2000年

目次

はじめに	江澤郁子…………… 3
I 創立者成瀬仁蔵の家政学部構想	一番ヶ瀬康子…………… 5
II 家政学部の教育内容およびその変遷	
1 旧制	館岡孝、赤塚朋子…………… 10
2 新制	宮崎礼子、赤塚朋子… 26
3 通信教育課程	赤塚朋子…………… 85
III 家政学部の卒業生実態調査からみる家政学部像	
1 大正期および昭和前期の本学卒業生に対する調査から	真橋美智子… 95
2 新制家政学部卒業生に対する調査から	沖田富美子、塚原典子…111
3 通信教育課程卒業生に対する調査から	真橋美智子…142
4 家政学研究科修了生に対する調査から	佐々井啓…147
IV 家政学部卒業生の社会的展開	
1 学位取得者に関する調査	館岡孝…153
2 外国人留学生について	大野静枝…161
3 旧制・新制・通信教育—卒業後の社会的活動領域	宮崎礼子…163
V 今後の家政学部に向けて	
1 学部として	大野静枝…171 江澤郁子 佐々井啓
2 各学科より	
児童学科	石井光恵…173
食物学科	丸山千寿子…174
住居学科	定行まり子…175
被服学科	大塚美智子…177
家政経済学科	堀越栄子…178
おわりに	江澤郁子…181
資料 日本女子大学家政学部 100年の年表	赤塚朋子…183

2. 外国人留学生について

本学の家政学部で学んだ外国人留学生は、大韓民国、中華民国からの来日が大部分を占めている。卒業後は殆どが母国に帰り、それぞれの国において家庭生活に入るか社会活動にも貢献してきた。この100年を期に本学で修得した家政学が両国において社会に如何に生かされてきたか、具体的な活躍ぶりを調査した。

本調査も1. に準じて取得学位、取得年、社会的活動について調査した。

先ず調査に当たり、両国の卒業生の卒業年次、氏名、住所を把握するために桜楓会会員部に依頼して名簿を入手した。調査の依頼は両国の桜楓会支部長を通して郵送で調査を依頼し、また個人的に連絡できる卒業生にも協力を得て、聞き取りも行った。大韓民国はソウル市、中華民国は台北市を拠点として地方の卒業生には郵送法などにより調査が行われた。しかし、卒業後の住所変更、結婚などで住所の不明などで連絡不十分な面もあり、十分な調査が得られたとはいえないが以下のようなことがわかった。

1) 大韓民国留学生について

旧制度の1930～1944年間に卒業した学生数は表IV-4にみられるように総数27名で各学科別にみると家政学部2類が最も多く19名であった。新制度に入り1956～1999年間は総数13名で各学科別では被服学科卒業が8名で多い。これらの卒業生の社会的活動については、特に旧制度の卒業生は卒業後、中・高の教職に就くか、教養のある家庭人として生活しており、更に第二次大戦後は、専門学校や大学の設立時に伴って、今まで中・高の教師であった人たちが教員に迎えられ、高等教育の教育者として貢献したと聞いている。その中でも正確な記録として旧40回家政2類（1942年卒）李仁喜氏は、理学博士（1975年、淑明女子大学大学院）を取得し、同徳女子大名誉教授に。また旧42回家政2類（1944年卒）の李琦烈氏は、理学博士（1973年、延世大学大学院）を取得、母校延世大学校家政大学学長、生活科学研究所長、延世大学名誉教授、大韓家政学会会長、韓国栄養学会会長、アジア地区家政学会会長（ARAHE）、その他食物学分野の各委員、顧問などを歴任し、韓国における食物学、家政学発展のために貢献され、高い評価を得ている。同じく旧42回家政2類（1944年卒）李叔姿氏は、世宗大学教授、旧41回家政1類（1943年卒）許明哉氏は、国務総理大臣夫人として政会の夫君を助けられている。新制度の卒業生は情報が少なく確実な事は不明であるが、新47回住居（1997年卒）は、専門を生かした分野、大林産業建設事業部に就職している。

[表IV-3]-(C) 薬学、歯学、その他

学位の種類	取得年	取得大学・大学院	学位論文の題目
薬	1937	東京大学	レモンチン揮発成分ペリレン構造の研究
薬	1957	京都大学	アゾ色素有機試薬の研究
薬	1977	大阪大学薬学部	イノシン型シクロヌクレオシドの合成研究
薬	1999	北里大学薬学部	サイトカイン類の構造予測・構造計算
歯	1974	日本歯科大学	酵母様細菌の口腔内分布
歯	M 1989	東京医科歯科大学歯学部	ヒト歯髄のアルカリホスファターゼの酵素化学的、免疫学的性質
家政 栄養	M 1976	ギーゼン大学農学部	Studien über den Einfluss Fett oder Kohlenhydratreicher Diät auf den Fett und Kohlenhydrat stoffwechsel von Kindern mit Diabetes Mellitus
家政	2000	武庫川女子大学	高齢者下着素材の研究
保健	M 1978	徳島大学医学部栄養学研究科	Studies on Lipid metabolism in rats fed on high fat and high carbohydrate diets with reference to the induction of fatty Liver. Part II Electron microscopic histochemistry.
保健学	1984	徳島大学医学部栄養学研究科 特殊栄養学専攻	Effects of various levels of dietary calcium utilization and fetal growth in rats
保健学	2000	北里大学医療衛生学部	覚せい剤の生体内分布とその胎盤通過性に関する研究
経	1961	法政大学社会科学研究所 経済学専攻	アメリカ社会福祉発達史
経	1995	東京大学経済学研究科	明治前期における経済と福祉—農村と都市の観点から—
農業 経済	M 1995	東京農業大学農学研究科 農業経済学専攻	家計における食材選択と利用に関する情報の計量的分析 —米と野菜の調理を例示として—
教育	1980	東京大学教育学研究科	達成動機づけに関する一考察—達成動機づけにおける手段的活動について
教	MD 1999	日本女子大学人間社会 研究科教育専攻	幼児理解促進のための教師教育に関する研究
文	1976	東京都立大学人文科学 研究科心理学専攻	Internal-External locus of control の行動分析
文	1993	日本女子大学文学研究科 教育学専攻	女子消息型往来に関する研究 ～江戸時代における女子用往来研究の一環として～

表IV-4 外国人留学生旧・新所属別卒業生数

国名	旧制					新制							総計 (名)			
	家 計	師 計	家 計	家 計	家 計	食 物	食 管	児 童	住 居	被 服	経 済	社 会		通 芸	計 (名)	
大韓民国	1	1	5	19	1	27	0	0	3	1	8	0	1	0	13	40
中華民国	0	0	5	4	3	12	3	3	7	4	4	1	0	1	23	35

2) 中華民国留学生について

旧制度の1935～1945年間の卒業生総数は12名で、各科別の在籍は表IV-4にみられるように家政1類が多い。本調査を中心になって進めていただいた桜楓会支部長の旧43回家政2類(1945年卒) 彭邱素沁氏は、国内各地域に在住する卒業生の方々への連絡の労をとって頂いたが、思うように情報が得られずご苦労が多かったようである。氏の調査の結果を返信の内容から察すると以下のようにまとめられる。

旧制度の卒業生は在学中の3年間は大学の教育、寮生活の経験は先輩のよき指導によって有形、無形の生活の資源を得た。と述べており、卒業後は帰国して結婚、家庭で「相夫教子」に専念した方が多い。

社会的活動で貢献した方は、家政学部ではないが、旧30回国文(1932年卒)は、婦女會の創始者として女性の生活向上のために活躍されている。家政学部卒業生としては旧39回家政2類(1941年卒) 楊劉秀華氏は、国際文化基金会理事として活躍され、また本調査の推進役として労をとられた彭邱素沁氏は、国立台湾師範大学副教授、中華家政学会8代、20代会長を務め、中華民国の家政学会発展のために貢献されている。

新制度の卒業生は、世界第二次大戦後(1961～1998年)に留学生として来日し、総数23名で、児童学科の就学生が7名で最も多い。韓国と同様に新制の卒業生と旧制の卒業生との交流は少なく、やはり情報が少ない。社会的活動として以下の情報が紹介されている。

新16回食物(1966年卒) 林蔡玉瑤氏は、明萬実業会社社長、新30通芸(1981年卒) 呉麗娟氏は、台南女子技術学院教授に。大学及び大学院において学んだ方では新29回被服(1980年卒) 邱魏津氏は、大学院博士課程に進学し学術博士を取得(1966年)し、国立屏東科技大学副教授。大学院7回食物(1969年卒) 頼愛姫氏は、実践女子大学教授、同じく大学院7回食物(1969年卒) 李澄美氏は、中国標準草書学会理事を務めて活躍している。

3. 旧制・新制・通信教育一卒業後の社会的活動領域

家政学部卒業生の社会的活動領域の検証を意図して「有識者」による「本学卒業後の略歴(進学・就職・結婚・社会活動・ライフワーク等)」に対する回答から、旧制・新制・通信教育課程について、学科別にまとめた。

この有識者調査の旧制の対象者は(1)桜楓会名簿から、(2)本学非常勤講師経験者、(3)聞き書きの会、(4)本学家政学部専任教員退職者

新制の対象者は(1)各学部からの推薦(教職やその科の資格等を考慮して)、(2)家政学部卒業生で本学の非常勤講師経験者、(3)各学科の縦の会(卒業生の会)歴代会長、(4)聞き書きの会会員、(5)家政学部卒業生で本学家政学部専任教員の退職者

通信は各学科からの推薦による。
郵送による回答は、旧制27名、新制84名、通信7名である。

1) 旧制

27名の学科、回生、卒業年月は表IV-5である。

表IV-5 旧制有識者調査回答者 27名所属学科・回生・卒業年月

卒業 学科 名	家 政 学 部	師 範 家 政 学 部	大 学 本 科 理 学 部	家政学部			家政科					卒業		
				一 類	二 類	三 類	育 児 科	保 健 科	管 理 科	物 理 化 学 専 攻 科	家 政 理 科	生 物 農 業 専 攻 科	年	月
25	◎												1928	3
26													1929	3
27	○	○											1930	3
28		○											1931	3
29	◎◎												1932	3
30		◎○	一回生										1933	3
31													1934	3
32													1935	3
33					◎								1936	3
34													1937	3
35													1938	3
36													1939	3
37													1940	3
38						○							1941	3
39													1941	12
40						○							1942	9
41					○	◎	◎						1943	9
42					○	◎	◎						1944	9
43					◎	○							1945	9
44													1946	3
45									○	◎	○	◎	1947	3
46										○	○		1948	3
47													1950	3
48													1951	3

◎ 略歴紹介

三年制

日本女子大学家政学部100年研究会

江 澤 郁 子 (研究代表者・名誉教授・戸板女子短期大学学長)

一番ヶ瀬 康子 (名誉教授)

館 岡 孝 (名誉教授)

大 野 静 枝 (名誉教授)

小 川 信 子 (名誉教授)

宮 崎 礼 子 (名誉教授)

沖 田 富美子 (住居学科教授)

佐々井 啓 (被服学科教授)

真 橋 美智子 (教育学科教授)

赤 塚 朋 子 (宇都宮大学助教授)

塚 原 典 子 (新潟医療福祉大学助教授)

日本女子大学家政学部100年の歩み

日本女子大学家政学部100年研究会 編

2006(平成18)年5月20日 初版第2刷発行

発行者 日本女子大学家政学部100年研究会

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

印刷・製本 有限会社 三秀美術印刷